

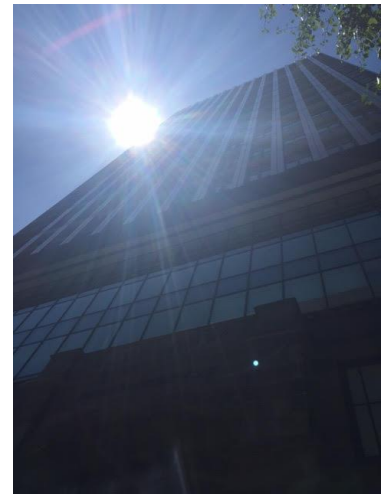
ディレクトフォースでは、社会に出るにあたって、そして、海外で働くにあたって大切なことを多く学んだ。

高校生がやるべきこととして、海外に興味を持つことは大事だが、狙いを定めて何かをすることはまだいいというお話があった。これには大変納得した。狙いを定めてしまうと狭い視野でしか物事を考えられなくなってしまいそうだと思うからだ。広い視野で、そして多くの視点から物事を見たりすることが大切だと考える。

今後、参考にしたいお話もあった。日本と海外を比較した時に、オーストラリアの学生と日本の学生が例に出された。日本の学生は、高校生の時に大学受験のために必死に勉強し、大学は遊ぶものだと考えているが、オーストラリアの学生は、高校生まではほとんど遊び、大学で必死に勉強をする。大学とは勉強するところで、学問を通じて成長し、学問の入り口をわかるための所だ。1・2年の時に良い先生を見つけることが大切である。といったお話を聞き、私も、以前は日本の典型的な考え方だったが、母に大学は勉強する所だから、バイトするのではなく、勉学に励みべきだと言われたことを思い出した。

また、英語で会話をする時に、何を伝えたいかがはっきりしていないと、英語がどれだけできていても、相手に伝えることができない。中身があれば、英語が多少できていなくても伝わるし、相手も分かろうとしてくれる。という言葉聞き、今の自分の国語力はまだまだ足りず、日本語でも十分に内容を相手に伝えることができていない。今までの、ただただ英語を勉強すれば良いという甘い考えを捨て、まずは日本語で内容のある言葉を伝える努力をするべきだと思った。

そして、話し合いの中で出た、積極的に意思表示をするという意見は、とても大事だと改めて思った。中学まで、外国人の先生と関わることが多かった。思い出すと、確かに自分の意見や、積極的な発言を求められることが多かった。日本人、特に東北の人は、自分の意見をなかなか言わずに周りに流されてしまうことが多いように感じる。話し合いの中でも出たが、日本人同士なら、阿吽の呼吸と言われる日本独特の文化で通じるが、外国人となるとそうはいかない。言葉に出さなければ伝わらない。海外で働く時だけではなく、日常的にも自分の意見を相手に伝えるということを意識することが大切になってくると思う。また、外国人との会話の中で、例えば商品の説明をしてもらっていたとすると、YES と言うと、会話が止まってしまう。NO と言うと、どんどん説明をしてくれる。会話の中で、わからないことはそのままにせずに、質問することも大切だということを改めて知ることができた。

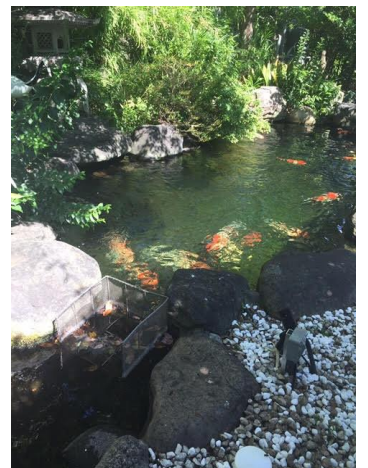


有意義なお話をたくさん聞くこともできた。迷ったら、やらずに後悔するのではなく、やって後悔する。私は、何年も、もう後悔はしないと宣言しているが、一向にできず、悩むことが多かった。しかし、後悔をするのは仕方ないから、良い後悔の仕方をするというこの言葉を聞いて少し心が軽くなった。他にも、家族、友人、過去の頑張っていた自分の姿は、自分を励ましてくれるもの。という言葉は、勉強を投げ出したくなった時、挫けそうになった時に思い出そうと心に留めた。

企業大学訪問では、なかなか訪問できないであろう、中国大使館を訪問した。職員の方に温かく歓迎され、充実した時間を過ごすことができた。私は、大使館に行くまでは、日頃のニュースなどから得る様々な情報の印象が強く残っていたため、中国という国に対してあまり良いイメージを持っていなかった。しかし、実際に訪問してみると、中国の一面しか見ていなかったんだということを強く実感した。

中国大使館は、1万1000㎡の敷地面積を持ち、地上8階、地下2階で構成されている。1階には応接室や宴会場、お客様に対して、中国に関して知っていただくために、風俗などの映画を上映する、映画ホールがある。政治家の方々がいらっしゃる中宴会場には、豪華なシャンデリアや屏風が飾られていて、とても美しかった。2階以上は領事部や政治部、広報部など10の部の部室になっている。敷地内には、テニスコートやプールがある。大使館員は、体を鍛えるために、水泳をやるそうだ。中国人は卓球も好きで、以前、福原愛選手が大使館に来たこともあったそうだ。大使館員と運動が結びつくとは思っていなかったのもとても驚いた。また、庭には松本日中友好団体から贈られた桜の木を始め、日中友好を願う、日本の団体から贈られた物がたくさんあった。木や花、池で泳ぐ鯉を見て、都心ながら、自然を満喫することができた。

職員のお二人は、私達の質問に丁寧に答えてくださった。中国大使館員としての心得、気をつけていることは、日本民族を尊重し、基本的なマナーを知ること、そして、日本の法律に従うことだそうだ。質問の答えの中で興味深かったものが四つある。一つ目は、中国人からみた日本人は、平和を愛しているという印象だということだ。一部の中国人は、日本は平和を愛していない、と言うそうだが、良い印象を持ってもらっていると知って、純粋に嬉しかった。そして、平和を保たなければいけない。と感じた。二つ目は、日中関係によるメリットは両国の経済が良好になり、文化の交流ができるということだ。日中関係は、唐の時代にさかのぼると、鑑真が日本に来たことによって仏教が伝えられたり、遣隋使や遣唐使が、先進技術を学び、日本に持ち帰ってきたり、熊野などに伝説が残る、中国秦代の方術士である徐福を祭る神社があったりと、古くからの繋がりがあつた。このような関係の友好を目指して大使館員になろうと思ったと、今回お話を伺った職員の方はおっしゃっていた。この頃の日中関係は良好ではないが、日本の発展は中国のおかげと言っても過言ではないし、昔から続いている関係だからこそ、ここで終わらせてはいけないと思った。三つ目は、今後のために高校生がやるべきことは、今の私達、高校生は、マスコミなどの情報から得られる、一部の中国しか見ていないので、もっと客観的に中国を見るべきだということだ。この話は、どの国にも言えることだし、自分自身にも言えることだな、と感じた。一つの情報だけで判断するのではなく、多くの情報の中から、自分で取捨選択の判断をしなければな





らないな。と改めて感じた。四つ目は、中国を、中国にいた頃に内側から見た時と、祖国を離れて日本で外側から見た時の違いは、外から見ると、色々な問題が見えてきて、PM2.5などの環境問題を早急に解決しなければならないと考えるようになったということだ。私も、日本に留まって自国を内側から見るだけでなく、外から客観的に見て、もっと多くの日本の良さや問題点を発見したいな。と思った。

最後に、職員の方の、外国を理解するためには、その国の美食を食べるのが一番という言葉に、一理あるなと思い、他の国も含め、すぐにでも実践しようと心を弾ませてしまった。



今回の東大見学会、企業大学訪問で、自分の視野を広げることができたと思う。一流企業で働く社員の方々のお話を聞き、自分の甘い考え方を正し、英語に対する新たな考え方を学んだ。また、中国大使館に行き、他国を理解することの難しさを学んだ。OB・OG懇談会では、高校時代の勉強などについてのお話や、大学について詳しく知ることができた。日本を代表する大学である東京大学に行き、意識を高めることができた。この経験が無駄にすることのないように、意識を高く持ち、日々の生活に生かしていきたい。

